

写真部門・一枚写真の部

最優秀賞

大竹市『広報おおたけ』（令和6年12月号 表紙）



■担当課：企画財政課

■連絡先：0827-59-2124

優秀賞

三原市『広報みはら』（令和6年12月号 表紙）



■担当課：広報戦略課

■連絡先：0848-67-6007

【担当者より（掲載意図）】

「大竹祭」の一コマ。祭り行列の御所車の飾りの前で、同じ年くらいの地域の仲間が、高揚している姿を収めた。

はっぴに染め抜かれた自治会の文字が表すように、紙面で自治会の事を扱った「コミュニティの現在地。」につながるよう表紙に使用した。（実際は直接の自治会行事ではなく神社のお祭りだが、各地区自治会も深く関わっている）

祭りという場で、改めて地域のつながりを感じる1枚にしたかった。

＝講 評＝

○コミュニティの現在地、というテーマにそって祭りでの高揚感を撮影してある。4人ともいい笑顔。空の青さもよい。

○キャプションなどの存在を一か所にまとまっており、写真のインパクトをよく伝えている。

○人だけでなく御所車もうまく配置していること、日差しの強さの割に顔が陰になっていないことなど技術力の高さを感じる。

○様々なシーンを色々な画角で切り取っており、とてもインパクトがある。

【担当者より（掲載意図）】

季節感を表現した表紙写真です。撮影中も、校正時も「可愛い！」と話題になった1枚です。ゆず湯を楽しむ子ども達の笑顔が印象的に撮影できました。日本らしい行事に触れる機会が減ってきている現代ですが、園児たちに伝統文化に触れてもらうことができたほか、表紙を見た人にも「冬至」「ゆず湯」の伝統文化を伝える事ができたと思います。足で柚子を持ち上げる子どもがいたり、弾ける笑顔で柚子を構える子どもがいたり、すまし顔の子どもがいたり、自然な子ども達の表情や行動に、広報を見た人も自然と笑顔になったはずです。

＝講 評＝

○冬至とゆず湯を表現するにあたり、色々と工夫されているのが良くわかる写真。床や室内の色味も偶然か暖色になっているのがより温かさを表現できているのが素晴らしい。

○イラストとの組み合わせもあり、明るくて温かみのある表紙になっていると思う。

○文字の色や子供達の表情、冬至の季節との事で写真もレイアウトを考えて撮ってあるのでまとまって良いと思う。

写真部門・組み写真の部

最優秀賞

安芸高田市『広報あきたかた』（令和6年8月号 4～5ページ）



■担当課：秘書広報課

■連絡先：0826-42-5627

【担当者より（掲載意図）】

広島神楽関西公演の開催報告記事に、課以上全体の写真1枚と神楽上演中の写真を4枚組み合わせ見開きで掲載。今回で3回目となる関西圏での公演は、これまでの取組で認知度が広がり会場は満席となった。安芸高田神楽の人気ぶりや関心の高さを表現するため、満席となった会場の写真を大きく配置。また、神楽そのものの躍動感や賑やかさ、華やかさを伝えるために演目ごとの写真を組み合わせ関西公演の盛況ぶりを表現した。

＝講 評＝

○会場の賑わいを表現する上できちんと広角レンズを使うなど、誰が見てもわかる効果的な見せ方をされていてすごい。

○文字の配置や大きさ、メイン写真を邪魔しない程度に細長くトリミングした写真など綺麗にまとめているのはさすが。

○舞台の照明のなか、ビビットな色やお客さんの表情もよくとらえている。

優秀賞

大竹市『広報おおたけ』（令和6年1月号4～5ページ）



■担当課：企画財政課

■連絡先：0827-59-2124

【担当者より（掲載意図）】

結成40周年を迎えた和太鼓グループ「亀居城太鼓」の記念コンサートを撮影したもの。大竹市内の複数ある和太鼓グループの中でも草分け的な存在であり、知的障害者に太鼓の指導を行うなど、自分たちの演奏だけにとどまらない活動をしている。その歩みを代表者に聞いて紹介した。また、毎年春に開催されている「亀居城太鼓」の恩師ゆかりのプロ演奏家も特別出演するなど、多彩な催しの様子を伝えたいと考えて掲載した。

＝講 評＝

○カメラを3台使い「チャンスを逃さないぞ」の意気込み通り返り見応えある写真ばかりで、太鼓のシーンも躍動感を出すためにブラすなど、考えて撮影しているのが素晴らしい。

○法螺貝演奏者を大胆に配置し、視線を釘付けにするあたりのデザインはすごく良い。バックも黒色で写真も締まって見えるし、書体セレクトも上手い。

○カメラマンの切り取り方だけでなく、写真のセレクトの仕方もとてもよいと感じる。